

アジア的・日本の多様性受容という特質の育成と活用



青木 美紗
(あおき・みさ)

要約

失われた10年が20年になり、それに輪をかけるかのように東日本大震災という未曾有の自然災害が襲いかかった。低迷し続ける日本社会において従来の発想を乗り越えるような解決策の模索が始まっている。多様化・複雑化する経済社会において、経済を含めた更なる発展を達成するためには、日本に文化的・伝統的に備わっている「多様性を受容する」特質を許容し、それを育成・活用することが大きな役割を果たすと考える。

アジア的な多様性を受容する特徴とは、多様な自然環境の中で自然と共生するために獲得されてきた自然環境の多様性を許容する考え方であり、日本を含むモンスーンアジアに見られる伝統的・文化的に継承されているものである。さらに、日本には多様な宗教や信仰を受け入れるといった日本的な多様性を受容する特徴もあると考えられる。すなわち、日本には多様な環境の中で、自然と共存しながら持続的に生存、あるいは発展する特質があるということである。この特徴を、現在の複雑化する経済社会で生じている問題解決に活用することが可能であれば、GDPで測られる経済発展以外の新たな発展への道を開くことができると考えている。

一方で、そのような特徴を活用するためには、経済発展の裏で見えなくなっているそのような潜在的な特徴を引き出す必要がある。その方法として、次世代の教育が挙げられる。日本では従来、注入式・訓練型教育が主流となってきたが、多様性を受容するという特徴を引き出し、育てるためには多様性を許容する教育が重要である。OECDによる生徒の学習到達度調査で好成績を維持しているフィンランドでは、子どもの好奇心や「なぜ？」という疑問を受け入れ、自ら興味関心をもち、自ら解決策を見つけるという、多様性を許容する教育が実施されている。この事例を参考に、日本に存在する豊かな自然環境や高い科学技術を利用し、子どもが好奇心に沿って自ら学ぶ環境を社会で創造するべきである。

新たな時代を迎える時、既存の概念を洗い流す作業が必要になるが、日本はまさにこの段階にきている。日本が本来備えているアジア的・日本的多様性の受容という特質を活用することで、前例のないかたちで日本独特の発展を切り開くことができれば、今後のアジアにおけるリーダーになっていけると考える。